

令和4年度 江戸川区立南葛西第三小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	生きる力を養う ○確かな学力 ○豊かな心 ○健やかな体	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○みんなの個性が輝く学校 ○自分がされてうれしいことができる子供 ○共に高め合い、共感(共汗)し合う教員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○組織的学校の運営の充実 ○多様性尊重の取組の充実 <課題> ○学力向上 ○教員の授業力向上 ○働き方改革の実践的取組		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・教員による補習教室を年35回実施、外部委託による放課後補習教室を年30回程度実施 ・東京ベネッセドリルの活用と検証 ・児童の学習意欲を高める取組の実施	・児童意識調査の学習に関する項目での数値向上 ・ベネッセドリル学年平均正答率70%以上	B	B	○教員による補習教室35回、放課後補習教室29回(全29回)実施。学習に関する意識調査(12月実施)肯定的評価9割(7月と比べ1%向上)。 ●2学年(3、6年)で正答率70%を下回る結果となっている。	B	・学力向上に向けた取組が共通理解の下、計画的に実施されている。家庭との連携により、個に応じたより一層の指導を期待する。	・タブレット端末や電子黒板等、ICT機器の積極的な活用及び強化週間の設定、校内OJT研修による授業力向上、朝学習や補習教室の充実を努める。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・チャレンジタイム年間35回実施、持久走記録会の実施、長縄大会の実施	・児童意識調査の運動に関する項目での数値向上	B	B	○瞬発力、俊敏性に加え、投げる力を高めるチャレンジタイムを35回実施し、運動に関する意識調査で肯定的評価8割以上。保護者アンケートで肯定的表91%(7月に比べると13%向上)。	B	・体力向上の計画的取組の継続を今後も希望する。	・体力テストの結果分析に基づく体育授業の充実及び児童が意欲的に取り組めるチャレンジタイムの更なる工夫を図る。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学習計画の選定及び並行読書用図書の実施 ・読書科校内OJT研修年1回及び外部講師による研修3回実施 ・学校応援団と連携した学校図書館環境の整備	・図書館を使った調べる学習コンクールへの参加数の増加 ・児童意識調査の読書に関する項目で数値向上	A	B	○各教科と学校図書館を連動した探究的な学習活動の実施により、2学年(2、3年)180名が参加。全国コンクール佳作受賞。読書に関する意識調査で肯定的評価76%。	B	・読書の充実及び高まりを感じる。苦手意識が高い児童への指導や配慮等、今後も取組の継続を希望する。	・読書科指導指針に基づく校内研修及び指導の充実。東葛西図書館や学校応援団(図書ボランティア)との連携強化。探究的な学習の系統性の明確化を図る。
	多様性の尊重	・個々の違いを尊重し、差別を許さない指導の徹底及び性別、性的指向、障害などの多様性を尊重する教育活動の充実	・福祉を柱とした総合的な学習の時間の充実、バリアフリー、地域団体等による出前授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上 ・児童意識調査の差別に関する項目で数値向上	B	B	○車椅子体験や手話、高齢者福祉施設訪問等、バリアフリー・地域団体による出前授業・交流活動を3年生以上で実施。児童意識調査肯定的評価8割以上。	B	・諸機関や地域と連携を図り、効果的に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。	・発達段階に応じた年間指導計画の更なる改善。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・SC参加の生活指導夕会の毎週開催、校内研修を年1回実施 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした個別対応会議の開催 ・個別対応ができるエンカレッジルームの計画的運営 ・副籍交流及び共同学習の設定	・教員アンケートで肯定的評価8割以上、児童意識調査で学習に関する項目の数値向上	B	B	○SCと連携した生活指導夕会39回実施。個別対応会(校内委員会)12回実施し、組織的共有化が図れている。SCによる個の特性に応じた支援等研修及びゆりのき専門相談研修の実施。児童意識調査肯定的評価93%(7月と比べると4%向上)。	A	・学校組織全体で児童理解に努めており、今後も取組の継続を希望する。	・特別支援教育コーディネーターを中心としたSC、心理士、関係諸機関との連携、組織的体制の更なる強化。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・年3回(6、12、2月)の人権週間及びいじめ防止啓発デー(毎学期)の設定、いじめ防止に特化した授業を年3回実施、いじめ防止対策委員会の設置	・児童意識調査で差別に関する項目の数値向上、保護者アンケートで肯定的評価8割以上	A	A	○6月人権週間での意識付け及びいじめ防止啓発デーの実施(毎学期)、いじめ防止授業全校実施(6月)により、児童意識調査肯定的評価9割以上、保護者アンケート肯定的評価8割以上。	A	・いじめ撲滅に向けた早期対応に取り組んでおり、今後も組織的体制の下、取組を希望する。	・いじめ防止対策委員会等校内体制の強化及び情報の共有化の徹底。
	インクルーシブ教育の推進	・特別支援教室やことばの教室との連携による指導の充実	・教員向け研修を年2回実施 ・児童への理解教育を年2回実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上、児童意識調査で人権に関する項目の数値向上	B	B	○教員向け研修(4、1月)実施。児童への特別支援教室、ことばの教室理解集を6月、7月に実施。児童意識調査肯定的評価9割以上、保護者アンケート肯定的評価8以上。	B	・特別支援教育への理解や指導が教員及び児童に図られ、今後も取組の充実を期待する。	・特別支援教室及びことばの教室と連携したインクルーシブ教育の充実及び家庭との連携の一層強化。校内研修の充実による教員の理解や指導力の向上を図る。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員及び保護者アンケートを年2回(7月、12月)実施及び分析・改善・学校ホームページ公表	・学校評議員及び保護者アンケートで13項目肯定的評価の数値向上	B	B	○学校関係者評価保護者アンケートを実施(12月)し、13項目中11項目(7月と比べて2項目向上)で肯定的評価8割以上。 ●アンケート回収率が68%であり、7月と比べて10%向上したものの、依然として全体の7割を下回っている。	B	・保護者や地域の意見に耳を傾け、改善に努めている。今後もより良い学校づくりを期待する。	・保護者アンケート(年2回実施)、学校評議員評価及び教職員の評価が連動した学校評価に基づく教育活動・学校運営の一層の改善を図る。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学年や専科、特別支援教室やことばの教室ごとに一定時退勤日の毎月設定	・教員アンケートで肯定的評価8割以上	B	B	○各学年、専科、特別支援教室やことばの教室ごとに月1回以上の一定時退勤日を設定・実施。教員アンケート(内部評価)で肯定的評価8割以上。	B	・業務内容の見直しや精選により、効率化が図られている。今後も業務改善に取り組まれることを期待している。	・業務内容の更なる明確化及び会議等の精選やホームページ化の運営方法の工夫を図るとともに、SSSの積極的な活用。
	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び児童生徒間の交流の充実	・教員間の交流会年1回実施、部活動体験や中学教員による出前授業の実施、小中必読書百選の取組	・児童意識調査の中学進学に関する項目で肯定的評価9割以上	B	B	○教員間交流の実施(6月)し、情報の共有化が図れた。今年度あらたに部活動体験を実施(7月)。体育大会に向けた交流活動(10月)、合唱コンクールハーサル鑑賞(10月)を実施。	B	・小中連携の交流活動が充実してきている。円滑な小中の接続を期待している。	・授業や部活動体験等、児童生徒間交流の更なる推進及び教員間の情報共有、共通理解の強化。
	SDGs教育の推進	・地域の歴史や特色を生かした海洋教育、環境教育の推進	・大学教授やNGO団体メンバー、地域の人材等を講師とした授業を実施	・保護者アンケートで肯定的評価8割以上	B	B	○食育と関連したSDGs教育を低学年(6月)及び5年生(9月)で実施。葛西臨海及び地球温暖化防止を考える学習を実施。	B	・地域に根差した教育活動に取り組んでおり、今後も取組の継続を希望する。	・総合的な学習の時間を中心とした教科等における年間指導計画の更なる改善。